

研究協力をお願い

昭和大学病院では、下記の臨床研究を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へご連絡ください。

1. 課題名			
周術期呼吸機能の変化からみた胸腔鏡下食道亜全摘術の有用性と合併症対策			
2. 研究責任者	所属	職名	氏名
	医学部外科学講座消化器・一般外科部門	助教	山下 剛史
3. 研究の概要・計画			
<p>研究背景：食道癌手術は侵襲が大きく、時に重篤な合併症を生じる。低侵襲性手術である内視鏡外科手術は多くの消化器外科手術で導入され、食道癌手術においても多くの施設で導入されるようになった。また、手術手技や周術期管理の発展により手術成績の向上が得られたとする報告が多い。胸部操作を有する食道癌手術では、術後の呼吸機能低下は必至であり、肺炎などの呼吸器合併症は最も懸念される合併症でもある。教室では、1996年から胸腔鏡下食道亜全摘術（VATS-E）を標準術式として行ってきた。2010年より人工気胸を併用している。また、術前から術後まで歩行訓練とIncentive Spirometryを用いた呼吸訓練をリハビリとして積極的にを行い、呼吸器合併症の軽減を図ってきた。これらは全てクリニカルパスとして計画されている。初診時、手術前後に呼吸機能評価を行い、周術期の呼吸機能の推移から胸腔鏡下食道亜全摘術の有用性につき検討し、各種合併症のリスク因子となりうるかを検討する。</p> <p>調査対象期間： 1996年1月1日から2020年1月31日まで</p> <p>調査対象情報： 上記期間に教室にて施行した食道癌手術症例データ</p> <p>調査項目： 経過記録、血液検査（白血球数、ヘモグロビン値、アルブミン値、CRPなど）、X線検査、CT検査、内視鏡検査、手術関連記録（麻酔記録、手術記録）、呼吸機能検査などの生理機能検査の診療録内容等</p>			
4. 研究実施期間			
医学部 人を対象とする研究等に関する倫理委員会にて承認され、医学部長または病院長の許可後から2021年3月31日まで			
5. 問い合わせ先			
所属：昭和大学 消化器・一般外科		職名： 助教	氏名： 山下 剛史
住所：142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8			
電話番号： 03-3784-8000			

なお、個人情報の保護のため、診療情報はすべて個人を識別できる情報（氏名、住所、生年月日、電話番号など）を削除し独自の記号を付して取り扱い、研究成果を学会や論文で発表する際も個人情報を出さずにはありません。